大枝公園

［事業主］守口市

［設計者］株式会社空間創研
株式会社安井建築設計事務所
株式会社SEN環境計画室

［施工者］株木建設株式会社大阪支店、岩田地崎建設株式会社大阪支店
奥アンツーカ株式会社近畿支店、株式会社エコ・テクノ守口支店
矢野建設株式会社守口営業所、大勝建設株式会社

Review

昭和 27 年の開園以降、春の花見をはじめ市民の憩いの場として、また少年野球で賑わう市民球場の場として親しまれてきた守口市唯一の地区公園が、５ヵ年の再整備を経て生まれ変わった。機能分散気味で未利用地が散在していた従来の状況は、敷地全体を見据えた明確な計画思想のもと大々的に刷新された。東側園地に子供の遊び場を、西側園地にスポーツ施設を集約させることで、当該敷地の持つ広がりがより顕在化し、かつ個々の機能も明瞭となり大いに強化された。結果、いずれの施設も連日盛況を呈しており、特に東側園地では、想定以上の親子連れが訪れ、水遊びや遊具で楽しむ子供の笑い声と安心して見守る保護者の語らいが、連日明るい活気をもたらしている。さらに特筆すべきは、このような日常的な公園機能と共に、敷地全体に渡って徹底的な防災・減災の視点と設備が随所に埋め込まれており、両者が違和感なく融合している点である。惜しむらくは、近年の台風被害により打撃を受けた緑のボリューム不足だが、この点は、今後公園が育っていくなかで、漸次充実していくことを期待したい。公園が、日常時も非常時も地域住民の「暮らしの味方」になるオープンスペースであること、その重要性を改めて想起させるランドスケープデザインである。

奈良県立大学地域創造学部地域創造学科 教授　井原 縁

Outline

守口市唯一の地区公園である大枝公園は昭和27年に開園した。時代の変化とともに、貴重な緑の拠点である大枝公園のあり方の見直しが求められ、平成26年度から公園再整備事業が行われた。

再整備は、「①社会的な背景に対応する魅力づくり」「②安心・安全な都市づくり」「③都市基盤の緑の再生」の3つの基本理念の下、「元気をチャージするスポーツ・防災公園」をコンセプトに実施された。再整備を経て、発災時に市民を守り支える防災の機能も充実し、多くの市民でにぎわう公園となっている。

作品面積：6.28ha
完成時期：平成31年3月
所　在　地：守口市松下町3番地外

Lieuvenir

［事業主］株式会社ナカタコーポレーション　［設計者］積水ハウス株式会社大阪南シャーメゾン支店　［施工者］積水ハウス株式会社大阪南シャーメゾン支店

Review

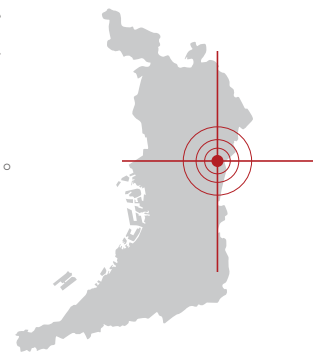
自宅の広いお庭を地域の方々に解放し、お花見会などを開催されていた、オーナー様。その庭を集合住宅に作り変えるにあたり、地域コミュニティに配慮した空間と設えを考慮し、積極的に実施した開発事例である。敷地は地域の主要道と、そこから分岐している小道に面しており、その小道は小中学校の通学路にもなっている。主要道と小道が辻を形成している角地の部分を広く一般に解放、石のベンチや広い石階段、緑豊かな植栽を施し、地域の人々や子供達がゆったり集える場として提供している。また、さらには玄関ファサード内の庭園にも自由に立ち入ることができ、子供達が中で遊べるような配慮もなされている。旧庭に使われていた既存石を階段や景石としてうまく活用し、歴史を継承していることも意義深い。大型集合住宅の開発物件では、公園や遊歩道を提供するなど、地域に対する配慮が行われているプロジェクトを多々見かけるが、ルヴニールのような小規模開発では稀少である。小規模な開発においても、このような地域への配慮が少しでも多く具現化されることにより、地域コミュニティの絆がより深まっていくに違いない。地域愛溢れるオーナー様に深く敬意を評したい。

（株）庭樹園 代表取締役　當内 匡

Outline

大阪の東部、生駒山のふもと忍ヶ丘駅近く。落ち着きのある環境の計画が始まった。旧家は生駒石をふんだんに使った庭、多くの桜を持つ広大な土地だった。庭に地域の方々を呼び入れて花見をするなど、地元住民とのコミュニケーションを大切にされるオーナー様。地域とのつながりを求めて共用部の開放を提案し、地域の子供たちを呼び入れる計画とした。2300㎡の広大な敷地に1棟24戸のゆったりとした計画。大きな面積の緑化規定をファミリーにとっての魅力的な共用スペースとして展開した。既存の景石をファサード・アプローチ・中庭・坪庭に使用する事で、新築の集合住宅でありながら経年美化されたたたずまいとなった。

ファサードからアプローチ中庭へと石が道しるべとなり住戸へ導く。



作品面積：0.24ha
完成時期：平成31年1月
所　在　地：四條畷市岡山東4丁目229-4

関西外国語大学御殿山キャンパス・グローバルタウン

［事業主］学校法人関西外国語大学　［設計者］株式会社日建設計　［施工者］株式会社竹中工務店

Review

本施設は、外国人留学生と日本人学生が「学」、「食」、「住」をともにすることでグローバルな人材を育成するための「まちのようなキャンパス」が目指されており、あたかも留学したような素敵な風景がそこには広がっている。雁行型の空間構成によって、Stage・1のWelcome PlazaからLearning Plaza ,Central Plaza,Terrace Plazaを経て、自然風景に溶け込むようなStage・5のForest step Plazaまで奥へ奥へと誘うシークエンシャルな風景づくりが洗練された風景の中で、心地良さを生み出している。各々のStageは教室や食堂、カフェなどのVILLAと呼ばれる低層の建築群に囲われたPlazaを中心にそれらの建築群がランドスケープによって有機的につながり、各々のPlazaがそれぞれ特徴のある風景が創出され、統一されたイメージの中に適度な変化が組み込まれている。また、教室やゼミ室はガラス面で大きくPlazaに開放されており、Plazaの風景の一部となっており学生が学ぶ姿が魅力的である。複数の屋外や回廊の移動ルートが大小様々なスケールのパブリックスペースを繋げるように準備されおり、高い回遊性を生み出している。そこでは、サロン的な空間や各種の居場所が提供されており、多様な出会いと交流を予感させる風景となっている。

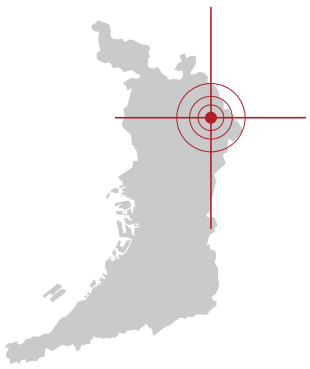
大阪府立大学研究推進機構 特認教授植物工場研究センター長　増田 昇

Outline

関西外国語大学創立70周年記念事業の一環として位置づけられた新キャンパス計画。外国人留学生と日本人学生が「学」、「食」、「住」をともにすることでグローバル人材育成の一翼を養う国際教育・交流の一大拠点の創出が目標に掲げられた。

計画地は平成13年竣工の中宮キャンパスに近接する丘陵地の高台に位置する。計画においてはこの中宮キャンパスとの差別化、さらには相互補完的に機能し互いに引き立てあうことによる大学の更なる魅力創出が求められた。建築、ランドスケープともに軸線を強調した空間構成によってダイナミックで象徴的な風景が連続する中宮キャンパスと対をなすよう、本計画においては雁行型の空間構成によって奥へ奥へいざない、出会いと交流のきっかけに満ち溢れた多様性を持つ「まちのようなキャンパス」創出を目指した。

作品面積：2.47ha
完成時期：平成29年12月
所 在 地：枚方市御殿山南町6-1



アサヒファシリティズ蛍池寮 楓

[事業主]　**株式会社アサヒファシリティズ**
[設計者]　**株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所**
[施工者]　**株式会社竹中工務店大阪本店**

Review

建物の維持管理を担う企業の若き社員たちが生活をともにする独身寮。寮室とシェアキッチンを組み合わせたユニットごとに、二人一組で暮らす。単身者が多数を占める時代を迎え、これからの共同居住と建物管理のスタイルを模索し洗練させていくうえでも、価値あるプロジェクトだ。そこに展開されているランドスケープが注目を集めた。チャレンジングなコンセプトを形にするために、プライベートとパブリックの程よい関係性を生み出す仕掛けとして、分節された建築と中庭や外構の植栽が一体的に構成され、生活の舞台としてのシークエンスが丁寧に演出されて心身を和ませる。また、周辺に広がる成熟した住宅街の佇まいと、さらに遠い昔、蛍狩りの名勝地であった土地の記憶を接続し、再生をイメージしたプランニングに好感が持てる。ハード・ソフト両面で、波及効果に期待したい。

大阪ガス（株）エネルギー・文化研究所 特任研究員　弘本 由香里

Outline

建物の維持管理を担う企業「アサヒファシリティズ」の独身寮の計画。社員同士の自然なコミュニケーションを誘発するような風通しのよい次世代の独身寮を目指して計画した。

平面計画では、2室の「寮室」と2人で共有する「シェアキッチン」を組み合わせた2戸1ユニットを構成し、シェアキッチンを共用通路に開放することで、「食」を交流の起点としたプライベートとパブリックの緩やかなつながりを生み出した。

また明るく開放的な中庭は、建物ボリューム間の開口を通して外部と連続させることで、光と風を感じる緑豊かなパブリックスペースを創出した。

作品面積：0.10ha
完成時期：平成31年3月
所 在 地：豊中市蛍池東町4丁目7-6

プレミストタワー大阪新町 ローレルコート

[事業主]**大和ハウス工業株式会社、近鉄不動産株式会社**
[設計者]**株式会社SKM設計計画事務所、株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所**
[施工者]**株式会社大林組大阪本店**

Review

近年、タワーマンションにおける公開空地のランドスケープデザイン事例が急増し、様々な工夫がみられるようになってきました。本デザインでは、水面を持つアプローチが特徴的ですが、緑地は敷地の四周それぞれに展開されています。南側の新町南公園や東側の公開空地との連続性をもたせることが意識的に行われ、かつそれぞれに品格がある点が本作品の評価されるところでしょう。また「新町演舞場跡地」記念碑は、かつてはなやかな難波踊りが演じられた新町の歴史文化を顕彰するもので、大正時代の「新町座」の窓装飾の一部が再利用されています。歴史文化を継承する緑のランドスケープがさらに育成管理されていくことを期待します。

京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科 教授　仲 隆裕

Outline

タワーマンションは都市的だが小さな存在ではない。本計画では、ファサード表現をグラデーションの方法で空に溶け込ませることで、その存在感を後退させた。その結果主役を足元のランドスケープへ譲ることになる。

なにわ筋の銀杏並木など豊富な沿道のみどり、敷地四方を巡る歩道上空地や並木、輝く水景や木陰のまち角小広場、アプローチ空間や生活のアクティビティがまちに繋がる。道を間に隣接する新町南公園と連続し地域に拡大したこれら公共性あるみどりの空間に囲まれ、大きな建物は歩行者が親しむ快適な存在となっている。

作品面積：0.22ha
完成時期：平成30年1月
所 在 地：大阪市西区新町2-5-1